

楽しい発想 まち活性化

小中高生が市長に提言



小学生班が提言したVR動画を体験する堀口市長

市内の小・中学生、高校生30人がまちをより良くするアイデアを考える「八幡市子ども会議」の市長への提言が1月30日、福祉会館で行われました。

同会議は、立命館大学政策科学部稲葉ゼミと連携して平成16年から毎年実施。今年度はコロナ禍のため、リモートで打ち合わせを実施するなど、対策をとり



市の特色を詰め込んだ時計の制作を提言する小学生班

ながら会議を重ねてきました。

まちおこしをテーマにした小学生班は、外観を竹や市の鳥「シジュウカラ」などでデザインする、市の特色を詰め込んだ時計の制作を提言。多くの人が利用する石清水八幡宮駅前に設置して市のシンボルにすることを提案しました。

ほかに、VR（パッチャリアリティ）を活用した観光PR動画や、市の地形が恐竜に見えることから発想を得たキャラクターの作成など、さまざまなアイデアを提言してくれました。

観光PR動画を提言した有都小5年の狩野皓多くん(11)は「緊張したけど、練習通りの成果が出て楽しかったです。観光客が増加して、まちが活性化してほしいです」と話していました。

会場に展示された作品



八幡の魅力活写ずらり

観光フォトコンテスト作品展示会

「第30回やわた再発見！観光フォトコンテスト」(主催：観光協会)の入賞作品が決まり、2月20日～23日の4日間、作品展示会が文化センター展示室で開催されました。

同コンテストは、観光協会が毎年主催。「記憶に残る京・やわた」をテーマに令和2年12月1日～1月31日の期間で作品を募集し、過去最多となる145点の作品が寄せられました。

会場には、スキ越しに見える朝焼けの流れ橋や、石清水八幡宮の鬼やらいで鬼を見て泣いてしまったお孫さんの写真などが入賞作品18点と全応募作品を展示。

また、市、観光協会、京阪ホールディングスで連携し、「八幡の秋」をテーマに令和2年11月1日～12月13日の期間にインスタグラム上で実施していた「やわた秋写んぼ」フォトコンペの入賞作品11点も展示され、来場者たちは写真を通して八幡の魅力を再発見していました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

避難所生活を模擬体験

支援学校で中1生防災授業

2月1日、八幡支援学校で市防災安全課も協力した防災学習の授業が行われ、中学部1年生9人が避難所での生活などを模擬体験しました。

同校では、防災をテーマにした授業をカリキュラムに組み込んでおり、生徒たちはこれまでに地震や水害を想定した避難訓練や、火災時の煙の中での避難を体験するスモーク体験などに取り組んできました。

今回の授業では、防災安全課

の職員に教わりながら、避難所での生活や防災用具などについて勉強。生徒たちは、自分たちで組み立てた段ボールベッドに横たわって使い心地を確認したり、非常食の説明を受けたりするなど、体験を通して防災について学んでいました。

松本琥我くん(12)は「防災用具のことを知れてよかったです」と防災への知識を深めていました。



エアマットに空気を入れる生徒たち

今月のこの人 子らのアイデアに感心

「子どもたちは大人が気付かないような鋭いアイデアを出してくれる」と話す八幡市子ども会議の世話人を務める稲葉さん。

始まりは平成16年、学校の統廃合について子どもから意見を聞くために開かれた子ども会議。司会を務めていた稲葉さんは、子どもたちの柔軟な発想に可能性を感じ、教育委員会と連携して現在の形に発展させました。

今年度はコロナ禍のため、リモートでの会議が余儀なくされるなど、さまざまな制限を受けましたが、「そんな中でも子ども

たちは楽しく話し合い、新しいアイデアを出してくれた」と感心しきり。

これまでに何人もの子どもたちの活動を見守ってきた稲葉さん。「自分には何もできないとマイナスの感情を持たず、自分が動けば何かが変わるという意識を持って」と、これからの活躍にエールを送ります。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体等を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。秘書広報課へお問合せください。



稲葉 光行さん

立命館大学政策科学部教授。趣味は読書、映画鑑賞などだが、つい授業に生かせないか考えてしまう。